

満開の桜 被災地へ 「と鉄道」の夢を 走らせる

新春恒例の「歌会始の儀」が1月22日、皇居・宮殿「松の間」で催されました。今年の題は「夢」でした。入選者10名の歌の中に長崎県小島町の馬渡寿人さんが詠んだ「満開の被災地桜 ぐり抜け「と鉄道」の夢を走らせる」がありました。能登半島地震のあと桜の季節には走らせたいと鉄道復旧に取り組んだのと「鉄道」関係者他の方々の努力を知り、この歌を詠んだとの解説がありました。(NHKの「被災地一歩」で経ちました。家屋の解体が進んだ集落の夜は文字通り「真の暗」です。わずかに街灯がポツンと見えるだけです。このような集落に「明日」が戻ってくるまで一歩一歩進ませなければ...。



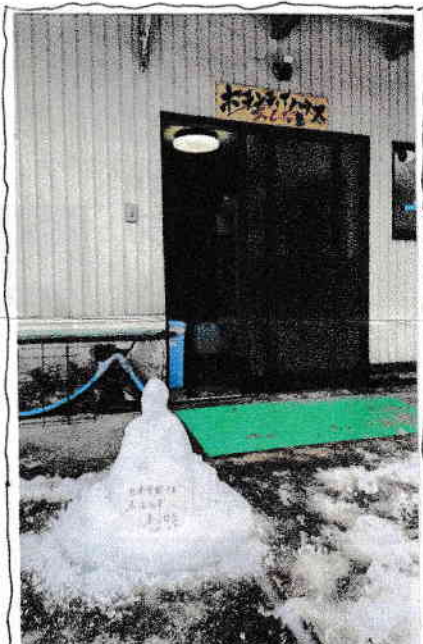
明けましておめでとうございます。昨年は「津波」をたくさん応援していただきありがとうございました。今年も頑張りますのでよろしくお願い致します！

令和七年 元旦

風海に祈りを 晴空に希望を

昨年、穴水町を訪れ、ミニコンサートを開いてくれた、シンガーソングライター・タレントの汐川ほたるさんから年賀状が届きました。

この1月1日に能登半島地震復興応援ソング「風海に祈りを 晴空に希望を」が発売しました。穴水町を訪れて感じたことを曲にしました。この曲はYouTubeで聴けます。ぜひ、一度聴いてみてください。汐川さんは、いしやわ観光特使でもあります。



1月9日、神戸の建築士さんで、少し積った雪を雪ダルマを作りました。「人の力を信じよう。きっと笑顔になれる日だ。」

阪神淡路大震災から30年

1995年(明)
1月17日(火)
午前5:46
発災

1995年1月17日に発災した阪神・淡路大震災からもう30年が経ちます。ボランティア元年とも言われ、初後に多くの教訓を与えてくれました。しかし、その教訓は能登半島地震に生かされたのでしょうか。



「阪神・淡路大震災30年の集い」

この1月16日(木)に神戸市長田区に二葉所で開催されました。神戸大学の室崎益輝名誉教授の基調講演のあと、福島県双葉町の高倉伊助さん、新潟県山古志村の田中雄雄さん、兵庫県震災復興研

究センターの出口俊一事務局長、NGO国境なき災害支援隊代表の佐・ホリさんらにおいでして私(渡井)も欠水・能登の現状、今後の課題について発言させていただきました。

福島県の高倉さんは「私たちに復興はない」と発言されました。とても重い言葉でした。原発事故の現実です。また、一方で、17日の朝々時半起きで長田区の各地で行われた慰霊祭の1つに参加しました。最も被害が大きかった長田区のいろいろな惨状を案内される中、「人の力ってすごいなあ」と思いました。時間が経ったとは思

いません。人が暮らせる所に戻っていました。30年経ってもなお、当時を思い、伝える努力を続けていました。
(渡井元之)



巨大でした。

復興のシンボルとして横山光輝さんの鉄人28号が！

(長田区二葉町の慰霊祭。お汁やお飯の炊き出し)

刈刈オースターズ 殿田選手



身長145号で東野選手を穴水3人目のプロ選手として紹介しました。先輩で穴水中学校から日本航空高校石川に進学。現在刈刈オースターズで活躍している殿田大和選手(20)は3人目でした。東野選手は4人目になります。(情報収集不足でした。申しわけおねがい。写真はオースターズHPより)

この春、日本航空高校石川は選抜大会出場します。

相談や情報は「おれ塾」へお願いします。TEL 0768-56-1151 FAX 56-1152